2025 年　9 月　30 日

研究休暇報告書

南山大学長　殿

所　属　　人文学部人類文化学科

職氏名　　教授　渡部森哉

受入研究機関等：日本国内、およびペルー共和国
期間：2024 年 4 月 1 日～2024 年 9 月 15 日、2025 月 4 月 1 日～2025 年 9 月 15 日

目的：ワリ帝国の研究

私はこれまでペルー北部高地カハマルカ地方をフィールドとして、考古学調査を行ってきた。1999 年から 2005 年までインカ帝国の研究を進めていたが、2006 年からインカ帝国よりも前の時代のワリ帝国の研究を始めた。ペルーの山地では 12 月から 3 月まで雨季になり、調査が困難になるため、乾季に調査を遂行するため 2024 年の春学期と 2025 年度の春学期に分けて研究休暇を申請した。

ペルーを中心とするアンデス地帯では、15 世紀から 16 世紀にかけてインカ帝国が台頭した。インカ帝国の首都クスコはペルー南高地にあり、そこから短期間でアンデスの広範囲の住民を支配下に治めた。インカ帝国の先行形態としてワリ帝国があったからこそ、短期間で台頭できたと説明される。ワリ帝国はペルー中央高地南部のアヤクーチョ県にあるワリ遺跡を中心として後 9-10 世紀に台頭した。遺跡の分布パターンなどが類似しているため、インカ帝国の祖型と見なされている。2006 年にパレドネス遺跡、2008 年から 2012 年にかけてエル・パラシオ遺跡、2019 年から 2025 年までテルレン＝ラ・ボンバ遺跡の発掘調査を行った。いずれもワリ帝国期の遺跡である。研究休暇中はこれまでの発掘データを共同研究者とともに分析することを重点的に行った。

2024 年度の春学期にはペルーにおいて、テルレン＝ラ・ボンバ遺跡の第 3 次発掘調査出土遺物の分析、ペルー北部高地の遺跡踏査などを実施した。ペルーで開催された国際シンポジウム *Segunda Mesa Redonda de Trujillo: Nuevas perspectivas en la cronología, organización y expansión del Imperio Chimú*（チムー王国の編年、組織、拡張に関する新視点）に参加し、研究発表をおこなった。

2025 年度の春学期には、アヤクーチョにおいてワリ遺跡出土遺物の分析、クスコ県ビル

カバンバ地方の踏査、エル・パラシオ遺跡等の出土遺物の分析、テルレン＝ラ・ボンバ遺跡の第 4 次発掘調査の実施、などを行った。また科学研究費補助金のメンバーがペルーに渡航し、人骨サンプルを採取した。日本への持ち出し許可が出たため、これから日本において同位体分析などを進めていく予定である。

同一地域を対象として、インカ帝国とワリ帝国という 2 つの帝国に在地社会がどのように組み込まれたのかを明らかにすることにより、古代アンデスの諸社会の動態をより解像度の高い状態で解明することが現在の課題である。研究休暇の始まりの時期に『インカ帝国歴史と構造』（中央公論新社　2024 年 5 月）を上梓したが、今後『ワリ帝国（仮)』という著書の執筆を進めていく予定である。

以上